

2022年度 朝日医療専門学校広島校

第1回 学校関係者評価委員会

(委員)

氏名	所属	任期	種別
宮迫 太一	公益社団法人広島県柔道整復師会 常務理事	2022年4月1日 ～2023年3月31日	企業・業界団体
竹内 健治	岡山県立津山東高等学校 元校長	2022年4月1日 ～2023年3月31日	高等学校校長経験者
盛岡 政行樹	盛岡鍼灸接骨院 院長	2022年4月1日 ～2023年3月31日	学生の保護者
中村 崇弘	己斐なかむら接骨院 院長	2022年4月1日 ～2023年3月31日	本校卒業生

評価項目別結果 1:不適切 2:やや不適切 3:ほぼ適切 4:適切

評価点	(1)教育理念・目標(教育理念、目標、育成人材像)		
	課題	今後の改善方策	学校関係者評価
4	教育理念や教育目標等については、入学式等の行事での挨拶・学生便覧、校内掲示、ホームページ上などで、学生・保護者に周知している。	今後も周知を継続していく。	特に問題なし。
	特記事項		
評価点	(2)学校運営(運営方針・運営組織・情報管理)		
	課題	今後の改善方策	学校関係者評価
3	理事会・評議員会で決定した経営方針や事業計画をもとに学校長の指示の下、組織的に運営しているが、教職員への周知・徹底を継続する必要がある。 校内各委員会において、各期における行動計画を立案し、業務の進捗状況を適宜確認している。	期初だけでなく、様々なレベルの会議を通じて、理事会・評議員会の決定事項を教職員に周知させるとともに進捗状況の報告・チェックを実施していく。	特に問題なし。
	特記事項		
評価点	(3)教育活動(目標設定、カリキュラム編成、成績評価、単位認定、資格取得の指導体制)		
	課題	今後の改善方策	学校関係者評価
3	年度当初から補習・チューター体制を整え、継続的に指導を行っている。また、3年生を対象に模擬試験を月1回実施し、学習状況を把握するとともに、学生に対して国家試験合格への意識付けを行っている。 新型コロナ感染症に感染し、出席停止となった学生に対して、授業動画を録画し、オンデマンド配信を行っている。	柔整・鍼灸学科ともに実質合格率の向上を目標に、今後も国家試験対策講義・補習を継続していく。 特に柔整学科は、後期から必修問題・柔整理論対策を徹底する。 また、Google Classroomを活用した動画教材や問題演習を配信し、学習指導を充実させていきたい。	新型コロナウイルス感染症の影響はあるが、感染対策を徹底しながら実技科目の指導の充実を図ってほしい。 国家資格を取得することで、どのような良いことがあるのかをイメージさせることが必要である。学習意欲を向上させるためにも、成功体験を伝えていってほしい。 また、少子高齢社会・人口減少時代となったことによる国家資格取得のメリットも伝えていってほしい。
	特記事項		

(4)学修成果(資格取得率、就職率、退学率、学生の社会的活動)			
	課題	今後の改善方策	学校関係者評価
3	就職希望者に対する就職率は100%を継続している。 退学率に関しても5%未満を維持している。 実質合格率を向上させるために、授業・補習等の取り組みをさらに向上させる必要がある。	新型コロナウイルス感染症の影響をできる限り小さくするために、対面授業を基本としながら、外部講師の特別講義やゼミ等を充実させていくことで、学習内容の充実や学生の意欲喚起につなげていく。	資格取得率を向上させるためにも、入学後早期に学生のモチベーションが上がる取組をしてみてもどうか。
特記事項			
(5)学生支援(就職・進学支援、健康管理、学生生活・相談、保護者との連携、卒業生支援)			
	課題	今後の改善方策	学校関係者評価
4	本校は担任制をとっており、様々な相談をしやすい体制をとっている。また、必要であれば保護者とも綿密に連携している。 しかし、前期はオンライン・オンデマンド授業の実施を余儀なくされたため、学生の意欲等が掴みきれない面がある。	新型コロナウイルス感染症の影響により、学生が不安やストレスを感じていると考えられる。面談や普段のコミュニケーションを通して状況を把握し、より丁寧な指導を継続していく。	「勉強が大変なので助けてください」というコメントがある。学生のサインを見逃さず、丁寧に指導してほしい。
特記事項			
(6)教育環境(施設・設備等、学外実習、防災・安全等)			
	課題	今後の改善方策	学校関係者評価
4	学生に対して行うアンケートの結果に基づいて随時改善を行っているが、概ね学生には不都合は起こらなかった。 経年劣化が見られる共用部分や教室内の壁面の補修工事、トイレの抗菌コーティング、照明のLED化等を実施した。 新型コロナウイルス感染症の影響があるが、外部実習の実施等については、できる限り対応している。	新型コロナウイルス感染症における国内動向を踏まえながら、今後は学外実習等の活動を感染対策を徹底しながら増やしていきたい。 また、自習室の利用にも制限があるため、学生の意向も踏まえながら対応していく。	特に問題なし。
特記事項			

(7) 学生の募集と受け入れ(学生募集活動、入学選考、学納金)			
4	課題	今後の改善方策	学校関係者評価
	<p>新型コロナウイルス感染症には慣れてきたが、募集活動に少なからず影響があるのが現状である。</p> <p>しかしながら、前期の重要事項である4～8月に予定していたオープンキャンパスについては、感染対策を徹底することにより人数制限を行うことなく開催することができた。昨年度よりも高校生の参加者数が増えている。</p> <p>同様事例はライバル校でも考えられるため、今後の出願における歩留まり率を抑えていくことが課題である。</p>	<p>オープンキャンパスの参加者の歩留まり率を抑えていくために、出願前に複数回の入試説明会をオンラインで開催する。</p> <p>また、ホームページ・SNS等で、学校の雰囲気やゼミ・サークル・クラブ・臨床実習等の本校の強みや取り組みを積極的に発信し、他校との差別化を図っていくことを継続する。</p> <p>さらに、次年度の学生募集のためでもある高校ガイダンスにも積極的に参加していく予定である。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、創意工夫しながら入学者の増加につなげていることは素晴らしい。</p> <p>特に高校生の入学者が増えていることは広島校の強みではないかと思う。</p> <p>ホームページやSNSに投稿する動画・写真等の見せ方に統一感をもたせることで広島校の強み・良さがさらに伝えられるように工夫をしてほしい。</p>
特記事項			
(8) 財務(財務基盤、予算・収支計画、会計監査、財務情報公開)			
4	課題	今後の改善方策	学校関係者評価
	<p>公認会計士の監査を受け、評議員会および理事会で審議のうえ、現状は適正な財務状況であると承認を受けている。</p> <p>また、昨年度課題として挙げた施設面の維持管理については、校舎内の廊下(共用部)壁面補修や照明器具(LED照明)整備、空調室外機の保全作業、昇降機(エレベータ)主ロープ交換など、定められた予算内で適切に遂行している。</p>	<p>引き続き全体的な財務状況を意識しながら適切且つ正確な予算申請を実施していく。</p> <p>また、事業遂行の際には可能な限りコスト削減に努める。</p>	特に問題なし。
特記事項			
(9) 法令等の順守(個人情報保護、学校評価)			
4	課題	今後の改善方策	学校関係者評価
	<p>設置基準に則り、適正な運営がなされている。</p>	<p>今のところ大きな改善は必要ないと考えている。</p>	特に問題なし。
特記事項			
(10) 社会貢献・地域貢献(社会・地域貢献、生涯学習、ボランティア活動)			
3	課題	今後の改善方策	学校関係者評価
	<p>地域住民を対象とした100歳体操の開催が、新型コロナウイルス感染症のため開催、中止を繰り返している。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の動向を踏まえながら、学生委員会を中心に町内会・地域包括支援センターと連携し、地域とのつながりを充実させていきたい。</p>	特に問題なし。
特記事項			

総合的評価結果

特に大きな問題なく健全に運営されている。